達古武地域 本格的自然環境調査・試行調査へ動き出す

広里地域に続いて達古武地域でも各種調査が進められています

達古武地域のササ地や伐採跡地

達古武地域では、広葉樹林の再生を目指して、自然環境調査と広葉樹林育成技術の試行調査を始めました。

この地域は、かつて湿原、湖沼、湧き水、河川、丘陵地帯の森林が一体的な生態系を形成し、タンチョウやオジロワシをはじめ、多様な動植物が生息する釧路湿原の特徴が顕著に現れていたところです。

ところが今日では、丘陵地帯には広葉樹の伐採跡地や荒廃地、ササ地や人工林などがあって、豊かな生態系が確保されているとは言い難い状況となっています。

このような状況から既に広葉樹林の再生を目指した活動を進めているNPO法人トラストサルン釧路と環境省との協働で本来の達古武地域の森を再生させようと、自然環境調査や試行調査に着手しています。

自然環境調査と試行調査を実施

自然環境調査では、達古武沼の集水域とその周辺地域を対象として地形地質・気象・森林分布・動植物・社会環境などを調べ、調査結果を基に、広葉樹林再生の場所や方法について検討する方針です。

また、広葉樹はシカなどの動物の食害を受けやすく、さらに苗木の育成方法や種子の貯蔵方法、植栽後の成長過程など技術的な研究の必要性があります。このため、達古武地域での広葉樹林の再生に必要な、広葉樹林育成技術の確立を図ろうと種々の試行調査を実施しています。

具体的には、ミズナラの種子であるドングリの発芽試験を行うほか、遺伝的撹乱をさけるため、地元産種子の苗木を毎年確保する必要から種子を貯蔵しています。さらに、春先に広葉樹の芽や樹皮がエゾシカに食べられ、樹木の成長に悪影響が及ぶことにも注目し、これを防ぐためのネットや電気柵を育苗地や植栽地に設置して、その効果を調べるほか、市民参加で行う可能性についても検証しています。

達古武地域では、これらの自然環境調査と試行調査の結果を踏まえながら、森林再生へ向けた具体的な計画づくりを進めていきます。

「森の再生に向けてNPO法人も本格的に参加しています。」

釧路湿原自然再生事業が本格化しています。達古武沼周辺での事業展開を環境省から委ねられた、NPO法人トラストサルン釧路の基礎調査事業も久々の本格的な冬の中で続いています。先日、達古武沼の水深を計り、等深図を作る作業を氷に150程の穴を掘って実施しました。真冬に実施したのは水鳥の利用やタンチョウの繁殖に影響を与えないためで、その分苦労が多く、氷の上を一人平均10km近く歩き回ることになりました。

達古武沼は地図で4mと深さが記載されていますが、どこを計っても1m70cmを超える地点はありませんでした。土砂の堆積？を実感しています。湿原にも同様な現象が起きているのではないでしょうか。

NPO法人 トラストサルン釧路
理事・事務局長
杉沢拓男さん

広葉樹育苗地に設置された
エゾシカ食害防止柵